

# 2018年9月期連結決算

代表取締役社長 伊藤 滋

2018年11月16日



## 1. 2019年3月期通期計画に対する進捗

- ◆ 売上高の進捗率は49%、営業利益の進捗率は41%
- ◆ 計画は下期に比重が置かれていることもあり概ね計画通り

(億円)	2018年 9月期 A	2019年 3月期計画 B	進捗率 A/B	中期計画 最終年 2021年度 C
売上高	4,485	9,200	49%	10,000
営業利益	102	250	41%	310
経常利益	119	270	44%	-
当期純利益 (親会社帰属)	88	170	52%	-

## 2. セグメント別進捗率

(単位:億円)

	売 上 高			営 業 利 益		
	18年9月期	年間計画	進捗率	18年9月期	年間計画	進捗率
漁業・養殖セグメント	168	371	45%	7	23	30%
商事セグメント	2,158	4,469	48%	17	55	31%
海外セグメント	832	1,652	50%	28	84	33%
加工セグメント	1,172	2,408	49%	31	60	52%
物流セグメント	82	164	50%	8	18	44%
その他	73	136	54%	6	10	60%
全社	-	-	-	5	0	-
合計	4,485	9,200	49%	102	250	41%

## 3-①. 事業見通し<漁業・養殖セグメント>

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		18年9月期	年間計画	進捗率	18年9月期	年間計画	進捗率
漁業・養殖	漁業・養殖	168	371	45%	7	23	30%

### 下期事業環境

- カツオ偏重の漁獲解消、7~9月のFADs ※規制による搬入減で相場は上昇。(漁業)
- クロマグロ相場は引続き弱含みで推移。カンパチ、ブリともに供給タイトな状態は変わらず堅調に推移。(養殖)

### 事業施策

- カツオ・マグロ漁の効率的な操業(漁業)
- 市場堅調なカンパチ・ブリ販売促進(養殖)
- 市場ニーズと価格を意識した養殖マグロの販売(養殖)

※FADs・・・集魚装置を使った漁



### 中長期計画へ向けての施策

- 底はえ縄漁業の強化  
⇒メロ漁獲船の代船建造によるさらなる収益拡大
- 南さつま種苗センター稼働開始  
⇒カンパチ、ブリの完全養殖実現へ

## 3-②. 事業見通し<商事セグメント>

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		18年9月期	年間計画	進捗率	18年9月期	年間計画	進捗率
商事	水産商事	726	1,444	50%	16	40	40%
	荷受	1,153	2,463	47%	1	10	10%
	畜産商事	278	562	49%	0	5	0%
商事セグメント小計		2,158	4,469	48%	17	55	31%

### 下期事業環境

- 魚価は引続き高値圏(水産商事)
- 不安定な鮮魚の出荷状況や冷凍魚の魚価高は継続(荷受)
- 豚肉、鶏肉は在庫多く相場軟調(畜産)

### 事業施策

- 適切な買付と着実な値上げ実施(水産商事)
- シェア拡大や仲卸との協働による市場内対応強化(荷受)
- 加工度を高めた商品へのシフト(畜産)



### 中長期計画へ向けての施策

- 凍結技術導入による安定供給  
⇒プロトン凍結場を稼働  
※プロトン凍結・・・凍結時に食品の細胞を破壊しない技術
- 北米で食肉加工販売を展開

### 3-③. 事業見通し<海外セグメント>

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		18年9月期	年間計画	進捗率	18年9月期	年間計画	進捗率
海外	海外	280	567	49%	9	57	16%
	北米	552	1,085	51%	18	27	67%
海外セグメント小計		832	1,652	50%	28	84	33%

#### 下期事業環境

- ・ タイ・・・対ドルバーツ高は改善。ペット原料となる鶏肉価格は安定。(海外)
- ・ オセアニア・・・オーストラリア、ニュージーランドとも漁獲量が減少(海外)
- ・ 助宗製品相場は引続き安定。鱒不漁による影響懸念(北米)

#### 事業施策

- ・ タイ・・・受注増となっているペットフードの積極的な販売促進(海外)
- ・ オセアニア・・・残された漁期での漁獲ロスのない効率的な操業実施(海外)
- ・ 助宗製品販売促進とヨーロッパ販社での販売拡大(北米)



Copyright ©2018 Maruha Nichiro Corporation

#### 中長期計画へ向けての取組み

- ・ タイペットフードライン増強(海外)
- ・ オーストラリアで操業船を新造船(海外)
- ・ 北米生産ラインの省人化(北米)
- ・ ヨーロッパ販売体制強化(北米)

## 3-④. 事業見通し<加工セグメント>

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		18年9月期	年間計画	進捗率	18年9月期	年間計画	進捗率
加工	家庭用冷凍食品	298	626	48%	8	13	62%
	家庭用加工食品	206	391	53%	11	9	122%
	業務用食品	584	1,228	48%	4	23	17%
	化成	83	163	51%	8	15	53%
加工セグメント小計		1,172	2,408	49%	31	60	52%

### 下期事業環境

- 主食系米飯・麺類や惣菜の唐揚げ等、簡便調理品が好調に推移(家庭用冷凍食品)
- 缶詰需要は引続き堅調も原料事業は不透明(家庭用加工食品)
- 原材料コストや人件費の増加等、引き続き厳しい環境(業務用食品)

### 事業施策

- 米飯、麺類に加えピザ・グラタン類の販売強化(家庭用冷凍食品)
- 青物缶詰、特に需要拡大のいわしを中心に原料調達・販売を強化(家庭用加工食品)
- 自社工場製品販売強化と時短・簡便商品カテゴリーの強化(業務用食品)



### 中長期計画へ向けての取組み

- 伸張する米飯ライン増強(家庭用冷凍食品)
- 課題事業からの撤退(家庭用加工食品)
- 気仙沼新工場着工(業務用食品)

### 3-⑤. 事業見通し<物流セグメント>

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		18年9月期	年間計画	進捗率	18年9月期	年間計画	進捗率
物流	物流	82	164	50%	8	18	44%

#### 下期事業環境

- 関東・関西をはじめとする大都市圏の強い保管需要が継続

#### 事業施策

- 基幹センターの効率運営や近隣センター間の密な連携による需要の最大取り込み



#### 中長期計画へ向けての取組み

- 新センター建設を含めた庫腹拡大策の実施

## 【参考】ユニット別 売上高/営業利益 進捗率

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		18年9月期	17年9月期	増減	年間計画	進捗率	18年9月期	17年9月期	増減	年間計画	進捗率
漁業・養殖	漁業・養殖	168	198	△ 30	371	45%	7	13	△ 5	23	30%
商事	水産商事	726	732	△ 6	1,444	50%	16	24	△ 9	40	40%
	荷受	1,153	1,169	△ 16	2,463	47%	1	2	△ 1	10	10%
	畜産商事	278	272	7	562	49%	0	4	△ 4	5	0%
商事セグメント小計		2,158	2,173	△ 15	4,469	48%	17	31	△ 14	55	31%
海外	海外	280	252	28	567	49%	9	25	△ 16	57	16%
	北米	552	538	14	1,085	51%	18	10	9	27	67%
海外セグメント小計		832	790	42	1,652	50%	28	35	△ 7	84	33%
加工	家庭用冷凍食品	298	305	△ 6	626	48%	8	8	△ 0	13	62%
	家庭用加工食品	206	203	3	391	53%	11	6	4	9	122%
	業務用食品	584	584	△ 0	1,228	48%	4	11	△ 7	23	17%
	化成	83	72	11	163	51%	8	8	1	15	53%
加工セグメント小計		1,172	1,164	8	2,408	49%	31	33	△ 2	60	52%
物流	物流	82	78	4	164	50%	8	8	△ 0	18	44%
その他		73	64	9	136	54%	6	6	0	10	60%
全社		-	-	-	-	-	5	4	1	0	-
合計		4,485	4,468	18	9,200	49%	102	130	△ 27	250	41%

**Thank You**



# MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。